

2020 年度事業報告書

2020 年 4 月 1 日から
2021 年 3 月 31 日まで

学校法人コリア国際学園

コリア国際学園2020年度教育事業は、昨年年初から今日に至る新型コロナウイルス感染拡大とその影響でかつてなく悪化した財政運営状況等、学校設立以来の最大難局の中で様々な対策と努力をもって押し進めてきた。

2020年度の始まりと同時に新型コロナウイルス感染防止のための第1次緊急事態宣言（4/7～5/25）が発令され、とりわけ1学期は生徒教職員がまるまる登校出来ない状況で入学式等学事日程が余儀なく中止変更となる中、年度当初から一早くオンライン授業実施の体制を確立し、建学の精神と教育理念に基づいた「学びの場」を守り抜いてきた。

新型コロナウイルス感染拡大が人々の生命健康と経済生活に未曾有の影響を及ぼす中で、学校運営を支えてきた関係者協力者の事業における売上など経済状況が急激に悪化しそれは学校運営を直撃した。6～8月には一時的であれ学校統合等の選択肢をもって内々の検討がなされるという厳しい状況に迫られた。

生徒たちが安心して学べる環境を早急に整えなければならない要請を反映して、2学期の始まり9月に多くの保護者と理事長、校長他教職員の緊急ミーティングが2回開催（各3時間超）された。張り詰めた空気と熱い議論の中、「何があっても学校を存続させる」と言った一致点に立ち、生徒募集もマンスリサポーターによる寄附金募集も一丸となり進めて行くこととした。

2学期の終盤に留学生らが入国し学校に戻れた状況でようやく12月に入学式が行われた一方、年明け2月初旬に卒業となる生徒たちの卒業準備と大学進学等の進路指導に例年になく関心が注がれた。

同時に、2021年度の生徒拡大募集及び課外活動として新設するK-POP・エンターテイメントコースの準備、収支バランス改善による予算編成、大阪府行政指導に対応した法人運営改善のための取り組み等を強化してきた。

I. 学校法人概要

1. 建学の精神

グローバル化・情報化が加速する21世紀の国際社会においては、柔軟な発想と幅広いコミュニケーション能力を兼ね備え、問題解決能力に優れた人間が求められている。

コリア国際学園は、在日コリアンはじめ多様な文化的背景を持つ生徒たちが、自らのアイデンティティについて自由に見つめながら、確かな学力と豊かな個性を持った創造的人間として国々と境界をまたぎ活躍できる、「越境人」の育成を目指す。

全ての教育活動を通じて相互の信頼と協同を深め、地域社会に根ざし、世界に開かれた国際学校として、東アジアはじめ世界の持続可能な発展に貢献する。

2. 教育理念と目指す学校像

1) 多文化共生／民族的アイデンティティと自尊感情を育むとともに、多文化共生社会の実現に向けた知識、技能、態度を身につけた人間を育成する。

2) 人権と平和／人間の尊厳と民主主義を尊重し、世界平和を希求する普遍的価値を創造するとともに、地球的視野を持ち、持続可能な社会の構築に貢献できる人間を育成する。

3) 自由と創造／真の自由を理解し、豊かな個性と多様性を基礎とした創造力の溢れる人間を育成する。

建学の精神および教育理念を具現化し、地域社会および国際社会に貢献する人材を育てる学校を目指す。少人数学校の特長を生かし、一人ひとりの学生の生活背景をしっかりと掴み、学びと育ちを支援し、その夢の実現に向けて共に歩む学校を目指す。来るべき東アジア共同体時代を展望しつつ、それを教育空間に先取りし、多文化共生の成功した学校モデルを提供することを社会に対する責務とする。

3. 名称 学校法人コリア国際学園

4. 住所 大阪府茨木市豊川2丁目13番35号

5. 設置する学校 コリア国際学園中等部高等部

6. 学科、修業年限並び定員

学科	修業年限	定員
中等部	3年	35名
高等部	3年	35名

7. 理事会・評議員会 (2020年4月現在)

理事長名 金淳次

理事数 10名 評議員数 17名

8. 教職員の現況 (2020年4月現在)

	専任	兼任	合計
教員	14名	10名	24名
職員	3名	0名	3名
合計	17名	10名	27名

9. 生徒数 (2020年4月現在)

	1年	2年	3年
中等部	4名	5名	2名
高等部	15名	17名	15名
合計	58名		

II. 教育活動状況

2020年度教育活動の基本方針として、新型コロナウイルス感染拡大で世界が難局に直面している状況で生徒たちが安心して学べる環境を整え、オンラインによる遠隔授業の確立など「学べる環境」を確実に確保するとともに、近年取り組んでいる教育改革を各分野で力強く大胆に進め KIS メソッドとして確立して行くことを定めた。同時に学校運営の経営基盤強化のため全力を尽くして行くこととした。

1. 新型コロナウイルス感染防止と「学べる環境」の確保

コロナウイルスの感染拡大に伴う全国緊急事態宣言、韓国中国からの新入生含む留学生が20名近く入国制限解除長期化の状況に対応して、当面1学期末まで遠隔授業を基本に部分登校等を併せて実施し、2学期以降は臨機対応してきた。生徒と教職員の健康状態把握に最大の関心を払いながら、期末定期試験実施方法、成績評価など前例ない状況に対応してきた。

2. 教育活動の充実

① 教育改革の実施

建学の精神「越境人の育成」、教育理念「多文化共生、人権と平和、自由と創造」を KIS の学校教育に落とし込み、学校文化として定着させるために前年度、KIS の価値観と原則を「人・学び・多様性」、「自由と責任」と定めた継続として、今年度は各部門で KIS の価値観と原則を具体化し実践してきた。

学校便覧を作成し活用していくこととした。

② 教育研究

基本的な教育技術に基づき、変化し発展する社会と教育環境に沿った新たな教育技術を開発することを目指して、既に一定の成果を継続的にあげているがコア言語・留学生日本語については実績を研究成果に積み上げていく作業を進めてきた。初任者研修・教員研修を年間を通じて実施した。

③ 英語教育

前年より実施した英文法授業の経験を活かし、低学年（中1～高1）での英文法の定着を目指した過渡的な授業を実施した。英語と英文法の授業内容を確認するとともに、相乗効果が得られるようカリキュラムを工夫し、そのため日常的に担当教員が連携をとるようにした。協力関係にある外部教育関係者や団体との連携を強化し、KIS の英語教育の枠組みをさらに作り上げることとした。

④ 生徒指導と担任業務

「自由と責任」を原則とした学校文化を作り上げるために、全員が理解できるルール作りを目指し、ルールの範囲内では誰もが安心して自由に学び学校生活を送れるよう生徒たちに自由と責任を求めていく方向性を浸透させた。そのような学校文化の中で生徒たちが年齢や発達に応じて自己指導能力を高めていけるよう担任教員の役割を高めるようにした。

⑤ 生徒募集

厳しい学校運営の状況を踏まえ生徒募集を最重要課題ととらえ、30名入転学の目標達成のため全力を尽くしてきた。前年度に海外からの留学生を11名まで増やし、オープンスクールやサマースクールなどに参加した児童生徒たちが高い確率で入学した経験を活かし、2020年度は「国内での知名度を高めるための効果的な広報活動」と「海外からの安定的な留学生の募集」に注力した。

結果、29名の入転学生を受け入れ生徒数を前年対比11名増加させた。

⑥ 教育のICT化等の継続推進

中等部生徒の基礎学力・学習習慣の定着、ICTを活用した教育実践と教育活動のICT化などの取り組みを継続推進した。IB教育においては1名がIBDPを合格取得する結実があった。

生徒教職員の健康診断の実施を推進した。

3. 財政基盤強化と法人運営の改善

① 財政基盤の強化

学校運営の厳しい状況を打開するため、9月以降マンスリーサポーター及び寄付者の幅を広げることとした。マンスリーサポーター126口と都度寄付金、後援会寄付金の総額は528万円超えとなった。

一方、財政の切り詰めに努めながら、全般的経費節約、教職員人員削減と生徒増加による収支バランスを若干改善し2021新年度の準備、教育の持続性を担保させる最大限の努力を費やした。

② 法人運営の改善

大阪府の行政指導を踏まえ不適切な運営実態の改善を進めた。法令規定に沿い、評議員欠員の克復、理事会運営の改善、利益相反の解消、財政処理の適正化を図るとともに法人ガバナンス強化に向けた内部統制委員会の設置など対策を講じた。